「アートプロデュースの立場から学ぶ旅」

相宮康人

今回私は「アートプロデュースの立場から学ぶ旅」というテーマで7/3～9/30まで約3か月間の遊学をさせていただきました。ニューヨークは文化的にも経済的にも世界の最先端を行く街です。特に、現代アートにおいては、世界の中心地であり、ルールを作る影響力を持つと言われています。私は「なぜニューヨークが現代アートの最先端の地で居続けられるのか。そこには仕掛けている人がいるからではないか。」という仮説をもちそれを確かめるために遊学を行いました。

【　ギャラリー・美術館探訪　】

　ニューヨークには4500を超えるギャラリーがあると言われており、その中でもチェルシー地区は300を超えるギャラリーが密集する地帯です。そこには、世界中のアーティスト、キュレーターなど、アート関係者も多く出入しています。現代アート動向を肌で知る為に、チェルシー地区のギャラリーを中心に作品を見続けました。実際に自分の足で見ることで、日本では知る事ができない発見がいくつかありました。例えば、ものすごく単純なことですが、日本のギャラリーに比べスペースが広いことです。ギャラリーの天井が高く横幅も広いので、高さ2メートルを超える巨大な彫刻作品から、ハガキサイズの小さな絵画作品まで、展示できる作品に多様性が生まれます。一つの作品に割り当てられるスペースが大きい分、アーティストはそのスペースに対応できるだけの強度をもった作品制作を行います。また、スペースが広いので鑑賞者は他のお客さんの事を気にせず落ち着いて作品を見る事ができます。その相乗効果によって質の良いアート作品が生まれることが分かりました。

※展示風景※

　また、毎週木曜日に行われるオープニングパーティーに参加しました。そこには、日本でのアートギャラリーのオープニングパーティーでは考えられないほど大勢の人がいました。来場者には無料でワインやシャンパンがふるまわれ、ある時にはギャラリーの前に屋台が出現し、メディア関係者のカメラがおしかけ、DJブースまでもが設営されていました。ギャラリーに来ている人たちに「どういう目的で来たのですか。」と聞くと、美術が好きだからという方はもちろん、友達を作りに来た方、お酒を飲みに来た方ど様々な方がいました。どのような目的であれ、お客さんが実際にギャラリーに足を運んでくるという事実、日本からでは分からなかった、その仕組み仕掛けを知ることができました。

※オープニングパーティーの風景※

　MoMAや、グッゲンハイム美術館、メトロポリタン美術館などでも作品を鑑賞しました。そこには、創設にあたっ

て寄付をした方の名前が掲載されているプレートがありました。ニューヨークが世界の中心地でいられる理由の一つに、稼いだお金を文化的なことに使う人がいる、そのような公共心をもった人が存在していることが関係していることが分かりました。

【　ニューヨークで活躍されいる日本人へのインタビュー　】

　ニューヨークはアーティストにとって憧れの地です。しかし同時に、未知の世界でもあります。今回の遊学を通じて、実際にニューヨークで活躍し生活されている人のお話を聞く事で、ニューヨークに憧れている人に情報提供ができればと考え行いました。ニューヨーク・ブルックリンでOuchi Galleryを運営されているArisa Itamiさん、画家として活動されているFujiki Isaacさん、建築家としてまたニューヨークに住む日本人と外国人の方との交流の機会を設けるグループ「The New York City Japanese Language Meetup Group」を主宰されているAkino Sakaokaにインタビューをさせていただきました。Fujiki Isaacさんには、制作現場見学もさせていただきました。

※meet upの風景※

※Isaacさんの制作現場風景1※

※Isaacさんの制作現場風景2※

【　ギャラリーでインターン　】

　Ouchi Galleryでインターンをさせていただきました。作品の搬入、展示、作品展示の際に空いた穴の修復、搬出、オープニングパーティーでの接客などをやらせていただきました。オープニングパーティーでは、お客さんに作品の説明、飲み物の提供などをしました。実際に、ニューヨークのアートギャラリーで働くことによって内側からニューヨークのアートの仕組みを学ばせていたいたことは大変貴重な体験になりました。

※ギャラリーでのインターン風景※

【　今後の活動　】

　今回の遊学体験を通じて、現代アートを更に深く知る為に、キリスト教のこと、歴史のこと、お金のこと、自分のこと、社会の仕組みのこと、人間関係のことなど、一見アートとは関係無さそうな事柄についてもっと勉強をしたいと感じるようになりました。なぜなら現代アートは、作品の質、人脈、お金、仕掛けの上手さなど総合的な力を問われるゲームの世界だと気がついたからです。また、海外で活躍する日本人の方達との触れ合いから、このグローバルな時代の中で生き残る為には、日本人として何ができるのか、日本人にしか提供できない価値とは何なのかを考えることが重要であるということを学びました。今回の遊学でますます海外への興味が湧いたので、その視点を生かして

また海外に飛び出していきたいと考えています。そして、海外と日本とを繋ぐ仲介人として役割を果たせるような活動をしていきたいです。具体的には、更にアートを学ぶ為に海外の大学院へ留学、世界のアートシーンを見て回る世界一周旅行、美術教師として青年海外協力隊への応募などを考えています。

Website: http://flavors.me/aimiya121#_ Email: aimiyaaimiya@yahoo.co.jp